

●「SHINWA WALK～伝説そろう歩き」は、「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、戦士の神話、伝説、民話の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

## SHINWA WALK 7

### 平将門の不死身伝説



不死身伝説  
まぼろしと消ゆ

将門の  
神輿にお告げ

矢のごとく



絵

### 新皇と称した将門の乱

#### 神輿を出して平定祈願

平安時代の中頃、天慶2年(939年)、関東で大事件が起きました。平将門の乱です。将門は関東一門を支配下に治め、自ら新皇と称しました。将門の回りには朝廷に不満を持つ人々が集まり、次々に勢力を拡大してきました。朝廷では藤原秀郷と平貞盛の連合軍を将門討伐に向かわせました。しかし、将門の勢力が盛んで、なかなか打ち破ることができません。そこで朝廷では、神様の力も借りなければならぬということで、全国各地の神社に将門調伏を祈らせました。熱田神宮へも必勝祈願のため天皇のお遣いが出ました。

熱田神宮では勅使を迎える日、星崎の星宮社まで神宮の神輿を出して乱の平定を祈願することとなりました。天慶3年(940年)2月14日のことです。神輿はたくさん神官に守られて、神宮南門を出て、浜を伝って呼統の岬(今の丹八山)にさしかかった時、バシャという音がして、どこから飛んできたのか、真っ赤な血が神輿の轅にべっとり付きました。実は、これは将門が討たれたことを知らせる神のお告げでした。

神事が進んで、祈願の祝詞を上げている時、武者が現れ「将門が只今、矢に当たって倒れました」と告げるとすく立ち去りました。秀郷と貞盛によって討たれたのです。「なんとありがたいことだ。先ほどの血は、きっと矢が当たった時の返り血にちがいない!」しかし、血に汚れた神輿を本宮に還すわけにはいかず、神宮寺の境内に社を建ててそこに納めました。それが大福田社です。また、天下安徳を祈って呼統の岬に熱田の七柱の神を祀ったのが、七所神社の創始です。

時代が流れ、大福田社は元禄16年(1703年)に南新宮社に移されました。現在の孫若御子神社の祀られている場所であるといわれています。ちなみに孫若御子神社は尾張の祖神・天火明命(瓊瓊杵尊の息子)を祀る神社です。



▶大福田社があった場所には今、孫若御子神社が祀られている。



### 将門とアキレウス

#### 奇しくも同じ運命に

将門には鋼鉄の身体を持つ超人伝説があり、不死身でしたが、ただコメカミだけは生身であったとされています。そのことから、矢で射められたのはコメカミとされています。将門の首は、大勢の捕虜とともに熱田まで来て、ここを流れる扇川でその首を洗い、傍らに埋めてその霊を祀り、捕虜を救済したといえます。その所以で、扇川にかかる橋は「米かみ橋」と呼ばれていて、近くに平将門を祀る三狐神社(訛って「しゃくじしゃ」とも)があったといわれています。今はもう扇川も米かみ橋もありませんが、須賀町の社宮司社の境内には「大瀬子にあった三狐神社をここに遷した」という説明碑が残っています。

将門の急所、つまりアキレス腱は、コメカミだったのですが、アキレス腱という呼び名は、実はギリシャ神話のアキレスの話が元になっています。

アキレスは、ギリシャとトロイアの間で10年以上にわたって続いたトロイア戦争でギリシャ方の武将。彼が生まれた時、母親は息子が不死身であることを願って、冥界へ流れる川・ステュクスの水にアキレスを浸しました。この

## 7th Letter



▼須賀町にある社宮司社は、大瀬子にあった三狐神社を移したものだ。



川に身を浸すと、不死の肉体になると信じられていたからです。しかし、母親はアキレスの足首を持って運ばれ、川の水の中にドボンとつけたため、足首だけが水に触れず、そこがアキレスの弱点になったのです。

文字通り、不死身の体を得たアキレスはギリシャ軍の中で最も勇猛果敢な武将で、腕に自信のある一匹狼タイプ。トロイアの王子・ヘクトルを倒すなど大活躍します。しかし、ヘクトルの弟・パリスの放った矢が彼の唯一の弱点である足首に当たり、最期を遂げることになったのです。

将門とアキレス。唯我独尊で、自分の力以外は何も信じなかった二人の運命は、奇しくも同じものになりました。

今回は、西行法師の二十五丁橋伝説をお送りします。お楽しみに。

■写真/Kiyoshi K ■イラスト/Rei ■取材/文/Icarus